

サクランボ特報 No.2

R8. 3.30 No.2
J A 中野市園芸課
J A 中野市サクランボ部会

2回分の防除を掲載しています

生育は、平年よりも5日程度進んでいると思われます。(平岡地区 佐藤錦 開花予想：4月14日頃)

また本年は、凍霜害が心配されますので、凍霜害対策資材の準備をお願い致します。

定期防除・管理作業は遅れないよう計画的に実施して下さい。

記録的な暖冬により、土壌が乾燥傾向です。かん水は例年より意識して実施をお願い致します。

第2回 定期散布

散布時期	・開花直前 (散布日の目安：4月9日～13日)	
対象病害虫	・灰星病、炭そ病、黒斑病、褐色せん孔病	
散布薬剤	水 100ℓ 当り 展着剤 (ハイテンパワー) 10ml オンリーワンフロアブル 50ml (前日、3回)	散布日 ____月 ____日 散布量 _____ℓ
散布量	10a 当たり ; 350ℓ	
注意事項	① ハマキムシ類の発生がある場合は、第3回のサムコルを前倒しで散布する。	

第3回 定期散布

散布時期	・落花直後 (散布の目安：第2回定期散布から14日後)	
対象病害虫	・ケムシ類、ハマキムシ類、オウトウショウジョウバエ、コスカシバ、灰星病	
散布薬剤	水 100ℓ 当り 展着剤 (ハイテンパワー) 10ml サムコルフロアブル10 40ml (前日、3回) ベルコートフロアブル 50ml (7日前、3回)	散布日 ____月 ____日 散布量 _____ℓ
散布量	10a 当たり ; 400ℓ	
注意事項	① 訪花昆虫保護のため、早朝に散布を実施する。(ミツバチを設置している場合は、引き上げ後に散布する) ② ベルコートフロアブルは5℃以下では固化する場合がありますので、注意する。	

次面もご覧ください

●凍霜害対策について

4月上旬の花芽が膨らみ始めた頃から開花前まで、低温遭遇（-2.2℃以下で30分以上）による花器障害が心配されますので、防霜ファンの稼働、園内の保温（燃焼資材、加温設備のある園地では加温機の使用等）により対策を講じて下さい。

*開花時に花器異常（貧弱花、めしべ欠落）が確認された場合。

- （1）開花状況をよく観察し、健全な花を中心に授粉を行ない結実確保に努めて下さい。
- （2）枝によって着果量が不足する場合は、樹全体で着果量を確保して下さい。

●訪花昆虫の導入について

雨除けハウスで、訪花昆虫を導入する場合は、ハウスの屋根を必ず開けておくようにして下さい。
（訪花昆虫保護のため）

●葉面散布について

樹勢衰弱や葉色が薄い場合は、葉面散布を実施し、健全な葉の育成と光合成、初期肥大促進に努めて下さい。

*葉面散布使用例・・・定期散布時に農薬と混用が可能です。（混用は最後です）

資材名	成分量	目的	倍率	使用時期	規格、参考価格	1000 散布 単価
ビビットグリーン	水溶性苦土 4%	苦土補給 葉の健全化 光合成促進	500 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1.2kg 1,680 円 5kg 5,280 円	280 円 211 円
液肥硫酸マンガ	水溶性マンガ 13.5%	マンガ補給	200 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1kg 1,300 円	650 円
グリーンデイズ	水溶性苦土 16% 水溶性マンガ 9.0% 水溶性ほう素 2.5%	苦土等補給 葉の健全化 品質向上他	1,000 倍	第3～4回目の 定期散布時に混用	1kg 1,740 円	174 円

●摘果

- ① 時期：生理落果終了後。大豆大の頃。（高砂・香夏錦・紅秀峰など）
- ② 方法：1花束状短果枝当り3～4果を残す。残す果実は、縦長で肥大良好な果実、果柄が長い果実。
- ③ 注意：結実過多の樹を実施する。花器異常により、着果不足が心配される場合は、摘果を見合わせ、樹全体で着果量を確保する。

●かん水

* 記録的な暖冬により、土壌が乾燥傾向です。定期的なかん水を実施して下さい。

- ① 時 期：発芽期～開花期、落花直後の肥大初期。
- ② かん水量：5～20^リ程度。
- ③ 注意事項：土壌水分を確認の上、かん水量を調整する。特に開花期は高湿による花腐れに注意。
果実の地色が抜け始めると裂果の恐れがあるため、かん水量を控えめにする。
結実量が少ない樹や強樹勢の場合は、裂果しやすいため、かん水量を控えめにする。

●新梢管理

- ① 時期：満開後3～4週間頃。（5月上～中旬頃）
- ② 方法：5～6芽程度残して摘芯する。（葉枚数で4～5枚）

次回特報発行予定：5月上旬頃 内容：第4回定期散布、今後の管理作業
